

# 平成27年度 社会福祉法人芙蓉会事業計画

## 「自分を愛するように隣人を愛しなさい」

### 「子どもとお年寄りの幸せのために」

いつも、本会事業の推進にあたり種々ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

現在、社会福祉法人に対して、社会から経営の強化や公益的な活動の実施状況について厳しい指摘や批判があります。地域の福祉ニーズや社会福祉を取り巻く環境が変化するなかで、地域の福祉施設としての役割を果たすため、その実践が重要となっています。

児童福祉施設においては、厚生労働省は社会的養護の将来像として、乳児院・児童養護施設の公的施策として、現在の養護環境を平成17年から15年間かけて本体施設、グループホーム、里親等の割合を3分の1づつにしていく方針であります。

一方、老人福祉を取り巻く環境は、3年に1度の改定が-2.27%と負の改定で決定されましたが、待った無しの老人介護施設運営は厳しい中でも現状を維持し、様々な方法を講じて老人介護福祉を守らなければなりません。一部多床室ユニットの施設再編については、平成23年に法律改定があり、大きな問題を抱え検討中である、地域包括ケアセンターの一層の充実とみぎわの里の運営に努力し、富士市より依頼された「生きがいデイサービス事業」を計画中です。法人の理念の実践に努める一年とします。

以上の状況を考慮し、当芙蓉会の法人本部・みどり園・ひまわり園・みぎわ園各事業の計画案を提出いたします。

## 「法人本部」

社会福祉法人は、社会福祉事業を担う中心的な存在として運営して参りましたが、多様化する福祉ニーズに対して株式会社やNPO等の供給主体が多元化している中で、今後も福祉サービスの中心的な担い手であり続けるための社会福祉法人制度の見直し（公益性・非営利性の徹底、国民に対する説明責任、地域社会への貢献）が論議され、特に法人機関の明確化（理事と評議員の兼職禁止）、一定規模以上の社会福祉法人は会計監査人の設置義務が課されて参ります。

社会福祉法人芙蓉会を理解していただくために、地域社会との信頼関係を構築し更なる質の向上とガバナンスを高めていくことが重要であり、法人理念の下、透明性（情報公開）・倫理性（苦情解決）・組織性（内部監査・監事監査・外部監査）の積極的な取り組み姿勢、労務管理（人材育成、職場環境の整備）、地域公益活動の実践を推進して参ります。

また、マイナンバー制度（平成27年10月：個人番号通知、平成28年1月：個人番号利用開始）に向けた安全管理体制、情報漏洩防止策等を進めて参りますとともに、各種保険等の法人一本化を図ることによる経費削減を進めて参ります。

施設整備では、設置してから 40 年が経過し老朽化に伴うキュービクルの容量変更と取替工事を実施して参ります。

最後に、昨年に続き新任職員研修で外部講師（坂倉裕子氏）による「社会人の基本と仕事の覚え方、人間関係の基本の心理学、信頼されるコミュニケーション」について学び職員の資質向上に努めより質の高いサービス提供を目指して参ります。

## 「児童養護施設 ひまわり園」

厚生労働省は「社会的養護の将来像」の公的施策として、保護者のない児童・被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童に対する現在の養護環境を平成 27 年度から 15 年間かけて、児童養護施設の本体施設、グループホーム、里親等の割合を 3 分の 1 ずつにしていく方針を掲げました。その中で、児童養護施設は本体定員の小規模化（本体施設は 45 名以下とし、全てを小規模ケア化すること）と施設機能の地域分散化を行い、更に本体施設は被虐待児や発達障害児の支援を行えるように高機能化するという将来の方向性を示されました。ひまわり園においても、その実現に向けて 26 年度に「家庭的養護推進計画」を作成したところであります。長きにわたり改善されなかった児童養護施設職員配置の最低基準（児童：職員＝6：1）が、平成 25 年度に 5.5：1 となり、更に平成 27 年度には 4：1 に改善されることとなり、小規模化に向けての計画を具体的に進めていく時期になったと考えます。

平成 27 年度は、小規模グループケア（28 年度 1 カ所実施予定）の準備期間として園内での検討を進めると共に、定員 90 名を今後どのように 45 名以下に移行させ、更に全てのユニットを小規模ケア化させていくのかという計画を具体化させる重要な一年であると言えます。

平成 26 年 8 月 29 日付で「子供の貧困対策に関する大綱について」が閣議決定されました。これは「子どもの将来が生まれ育った環境に左右されず、また、貧困が世代を超えて連鎖することがないように必要な環境整備と教育の機会の均等化を図る」ことを目的としたものです。ひまわり園としても高等教育を受けられるよう保障していくことが「貧困の連鎖を断ちきる」ためには重要な要素であると考え、生活環境、人的環境、学習環境等を整え、安心して暮らせる環境作りを進め、進路支援やアフターケアに努めます。

## 「地域小規模児童養護施設ひろみ」

本体施設の支援のもと、地域の中での生活体験を基盤に、家庭的な環境の中で、より個別的な関わりを持ちながら、個別のニーズに沿ったサービスを提供することを目指します。

新しく入所する児童に対しては、落ち着いた生活が送れるように、学校や児童相談所などと連携し、十分に配慮して養育していきます。

今年度は中学校3年生が1人おりますので、児童が自分で進路を選択し、それに向かって努力出来るように支援していきます。

ひろみを自立後、生活が安定しない卒園生もおりますので、アフターケアについても具体的な計画を立てて、積極的に実施していきたいです。

また各施設、家庭的養護推進計画を進めていかなければならない中、先駆的に地域小規模施設を運営してきたひまわり園に情報提供を求められることが多くなると予想されますので、ひろみが今まで培ってきた実践的な知識や運営システムを、研修会や施設見学等を通して、積極的に発信していくことで、他施設や関係機関に対しても協力していきます。

平成27年度は本体施設の支援のもと、以下の基本目標に基づき、職員の技能向上および児童養護サービスの向上に努め、安全で安心な暮らしを子どもたちに保障し、社会的自立並びに家族再統合に向けて、関係機関、地域、学校、保護者と連携・協働して事業を推進します。

## 「乳児院 恩賜記念みどり園」

社会福祉法人芙蓉会創立の理念の基に、乳幼児の人格発達における乳児期の重要性を考慮した事業を基本として、暫定定員23名での事業を計画します。

児童養育については、乳児院運営指針に則り、下記の基本目標や実施目標を中心に据え、平成26年度に策定した家庭的養護推進計画の実現に向けた第一段階である適正な定員の設定のため、暫定定員が3年連続していますので、定員見直しを行う平成28年度に向けて、定員減を視野に入れた養育体制の実施・検証を試みます。

また、看護師の定員が満たせない状態ですが、平成27年度は小規模グループケアの再開を計画し、子ども達により良い養育環境が提供できるように、養育単位の小規模化を目指します。「家庭的」とは対局的「管理的」な要素を多く残す乳児院の運営ですが、子ども達の安心や安全の確保を第一に考え、今日まで実施してきた「子ども主導の心を育てる養育」を継続しながら、家庭との連絡調整を密に行い、早期家庭復帰の実現や、家庭再構築に向けた里親委託の推進を心掛けた養育を行います。

なお、前年度の入所人員の減少から暫定定員が確定しているため、積立金を取り崩して事業を実施する予定です。

## 「特別養護老人ホーム みざわ園」

平成27年度に入り老人福祉を取り巻く環境は、国の超高齢化と財政健全化を旗印として社会保障財政を柱とする厳しい状況の下で、3年に一度の改訂が-2.27%（平

均)での負の改定で決定されました。

この事の要因の一つにマスコミ報道に端を発した社会福祉法人内部留保の問題、特養施設の収支差率が高いとした、統計的にいい所取りを根拠として算定された今回のマイナス改訂であるようにも感じますが、内部留保に係る問題も次期を見据えた施設整備、展望、又介護福祉人材育成のための人件費など、これらの要素を抑制することにも繋がる負の連鎖の引き金にならないのかが不安とする所であります。

只、待った無しの老人介護、福祉運営は厳しい中でも現状を維持し、且つ資質の向上、環境の整備等を図るべく様々な方法を講じ、前を見据える必要性を感じています。一つにデイサービス部門での提供内容による料金体系の変更、介護支援（予防介護）に於ける市町村独自支援事業への変更等、差別化を図る提供内容の組上げを早急に進める必要があります。

又新規開設みぎわの里の登録人員の確保と適正な運用、一定の所得利用者の自己負担2割保険料支払いと負担増、そして大きくは今年度よりみぎわ園内施設基準の見直しによる一部多床室ユニット型20床の施設再編（地域密着型小規模特別養護老人ホームとして）の問題として人的配置、居住環境、料金設定、事業会計の変更と大きな問題を抱えています。これらの事については現入居者とご家族への説明責任を以てこれを進めます。

地域に根ざして、信用と信頼そして実績を作り上げていく老人福祉部門として地域包括ケアシステムの一環である吉原西部地域包括支援センターの評価と価値その存在意義を充実させ、緊急に要請された富士市生きがいデイサービス事業の受託、介護現場に於ける人的資源の充足と充実、企業間格差が懸念される人件費費用、人材育成とスキルの向上が底辺となって行く事業年であり、法人の理念に沿って「人に愛される施設像」を職員と共に築き、創造していく時ではなかろうかと感じています。